Common Table、Whitbreadの旧レストラン57店を取得へ

取引により700人の雇用が生まれ、最初の店舗は11月中旬から営業を再開する見通し。

2026年10月7日（水）



Common Table Groupは水曜日、Whitbreadが以前運営していたレストラン57店を取得する計画を発表した。同社によると、この取引により700人の新規雇用が生まれる。Whitbreadが英国のブランドレストラン市場から撤退する方針を決めた後に閉鎖された店舗の営業再開を進める。

同社は、新たな雇用に加え、Whitbreadから移籍する従業員も受け入れると説明した。最初の店舗は11月中旬から営業を再開する見込みで、Common Tableは全店をできるだけ早く全面的に営業再開させたいとしている。

今回の買収は、かつてBeefeater、Brewers Fayre、Table Tableの各チェーンを展開してい

たWhitbreadが、事業の一部から大幅に撤退する動きに続くものだ。Whitbreadは、英国のブランドレストラン事業から撤退するにあたり、これらのブランドで営業する残りの店舗を9月に閉鎖すると、すでに明らかにしていた。

Common Tableによると、取得する店舗はレストランとして運営し、ホテル宿泊客と地元客の双方を対象に、一日を通じて飲食を提供する。また、姉妹会社のRodeo Groupを通じ、新たなスペシャルティコーヒーのバリスタメニューも導入するという。

これほど多くのレストランが営業を再開すれば、英国のホスピタリティ市場全体で飲料の供給業者にも影響が及ぶ可能性がある。店舗の営業再開に伴い、ビール、ワイン、スピリッツ、コーヒーなどの飲料製品に新たな需要が生まれるとみられる。特に、終日営業と幅広い飲料メニューを計画していることが背景にある。

Common Tableは、レストランの改装や従業員の研修・育成、新メニューの開発に投資するとしている。同社は運営モデルについて、各店に「独立系店舗の精神」を持たせ、地域のチームがサービスを提供するコミュニティに合わせて店舗づくりを進められるようにすると説明した。

Common Table Groupのマネージングディレクター、Thomas Anderson氏は声明で、「最優先事項は、できるだけ早く店舗を再開し、営業を軌道に乗せることだ」と述べた。また、チームに意思決定を委ね、地域の需要に応じて各店の運営を調整できる、「地域に根差した起業家精神あふれる事業」を築いていると語った。

同氏はさらに、店舗の再開にあたり、来店客に「新たな活気とアイデア」を届けることを楽しみにしていると述べた。

同社は現在、ゼネラルマネジャーを含む新たな職種の採用を始めており、求人はウェブサイトに掲載するとしている。業界各社が事業拡大計画を進める一方、人件費の上昇圧力や経験豊富なホスピタリティ人材の獲得競争が続くなかでの採用となる。

Anderson氏はレストランの運営に携わった経験があり、ロンドンとマンチェスターにRodeo Doughnutを15店舗展開するスペシャルティコーヒー・ベーカリー事業、Rodeo Groupを率いている。Common Tableによると、同社は、Whitbreadの元幹部を含むチームを擁するホスピタリティ業界向け変革コンサルティング会社Rove360の支援を受けている。

今回の取引は、Whitbreadの旧レストラン事業をめぐる最近の複数の取引の一つだ。今年初めには、Mitchells & ButlersがWhitbreadの旧店舗のうち、より小規模な一まとまりを買収することで合意した。別の取引では、ブランドレストラン53店がQueensway Innsに条件付きで売却され、営業を継続する見通しとなっている。

一連の取引の進展は、Whitbreadが同分野から撤退した後、旧レストラン網が市場で急速に再配分されていることを示している。供給業者、物件所有者、地域の労働市場にとって、Common Tableの計画は規模の大きさに加え、来月から比較的早期に営業が再開される見通しである点が目を引く。

同社は57店すべてのブランド戦略をまだ明らかにしていないが、再開にあたって飲食を中核に据える方針を示している。終日レストラン営業に加え、コーヒーの提供を強化する計画で、再開店舗に関わる飲料関連パートナーの幅が広がる可能性がある。

同社は買収の金銭的条件を明らかにしていない。また、水曜日の発表では個々の店舗名も公表しなかったが、店舗の工事が完了し、スタッフがそろい次第、できるだけ早く全店を再開することを目指すとしている。